

授業科目	身体障害治療学Ⅲ				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士として病院に勤務していた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

整形外科疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。手の整形外科疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。整形外科疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 整形外科疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 整形外科疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 整形外科疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・手のROM, 手のMMT
- 第2回 手の骨折の概要
- 第3回 手の骨折の作業療法評価とアプローチ
- 第4回 末梢神経障害の概要
- 第5回 末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ
- 第6回 関節リウマチの概要
- 第7回 関節リウマチの作業療法評価とアプローチ
- 第8回 腱損傷の概要
- 第9回 腱損傷の・作業療法評価とアプローチ
- 第10回 熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第11回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第12回 変形性膝関節症の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第13回 手の整形外科疾患の症例検討
- 第14回 手の整形外科疾患の症例検討
- 第15回 手の整形外科の作業療法評価とアプローチ例

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】60%、小テスト20%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、各疾患に共通する解剖学・運動学や整形外科の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。

■ 教科書

書名：標準作業療法学-専門分野 身体機能作業療法学 第3版

著者名：矢谷 令子監修

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：臨床ハンドセラピー

著者名：文光堂

出版社：坪田貞子

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。

■ 講義受講にあたって

実技の際は袖を捲り上げやすい服装とバスタオルを持参のこと。小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。